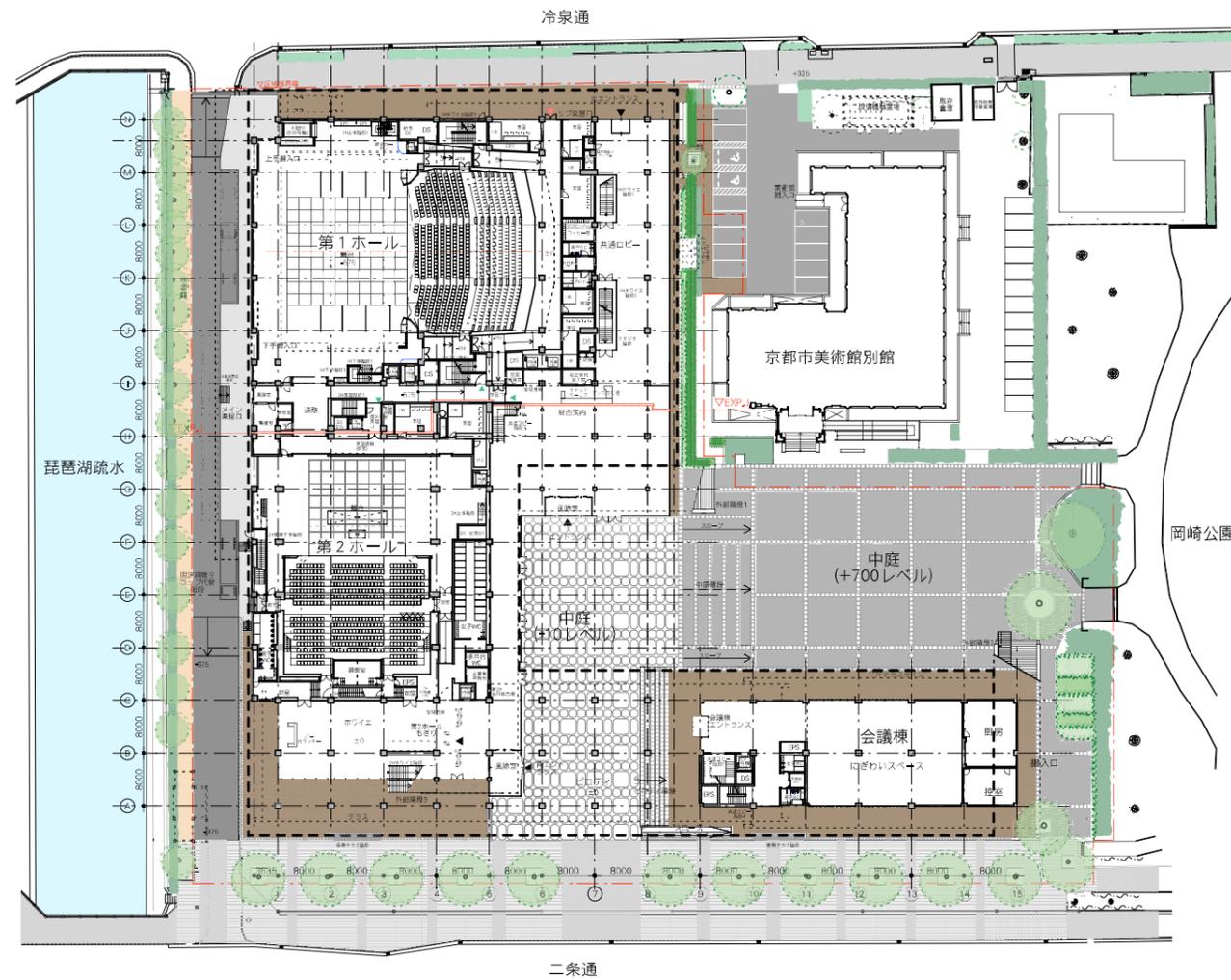


□ 植栽計画

基本的な考え方

- ・ 既存樹木を活かした緑化計画を行う。
- ・ 既存樹木現状維持を原則とするが、建築工事等でやむを得ず撤去する場合は、敷地内の緑地に移植するなど活用とする。
- ・ 隣接する岡崎公園や琵琶湖疏水、遠方の東山など、既存周辺環境に配慮した計画とする。
- ・ 樹種選定にあたっては、生育環境や竣工後の維持管理に配慮した計画とする。
- ・ 適宜、自動灌水設備の設置を行う。



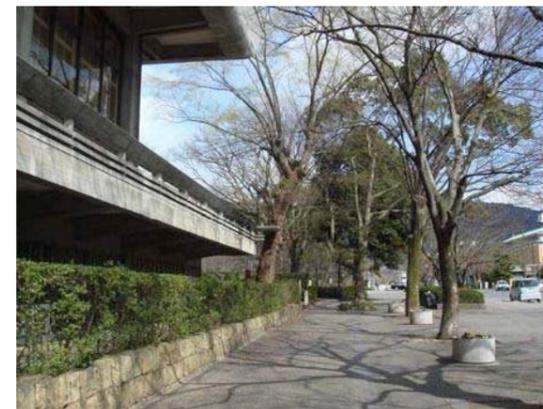
平面図 縮尺1/1000

二条通側（敷地南側）の緑化計画

- ・ 歩道状空地のケヤキ並木は現状維持とする。また敷地南東角の大木も現状維持とする。
- ・ 東側の既存生垣植栽は、二条通からにぎわい施設へ自由にアクセスできる明るい空間づくりを目指すことから足元の石積みとともに撤去とする(石積みは再利用とする)。



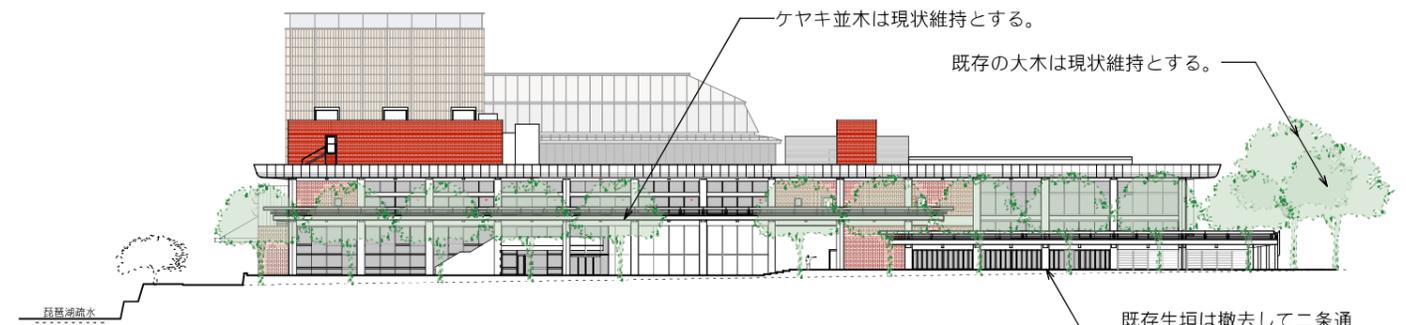
二条通側(敷地南側)のケヤキ並木は現状維持とする。



二条通から自由なアクセス確保のため既存生垣は撤去とする。



南東角の敷地境界部



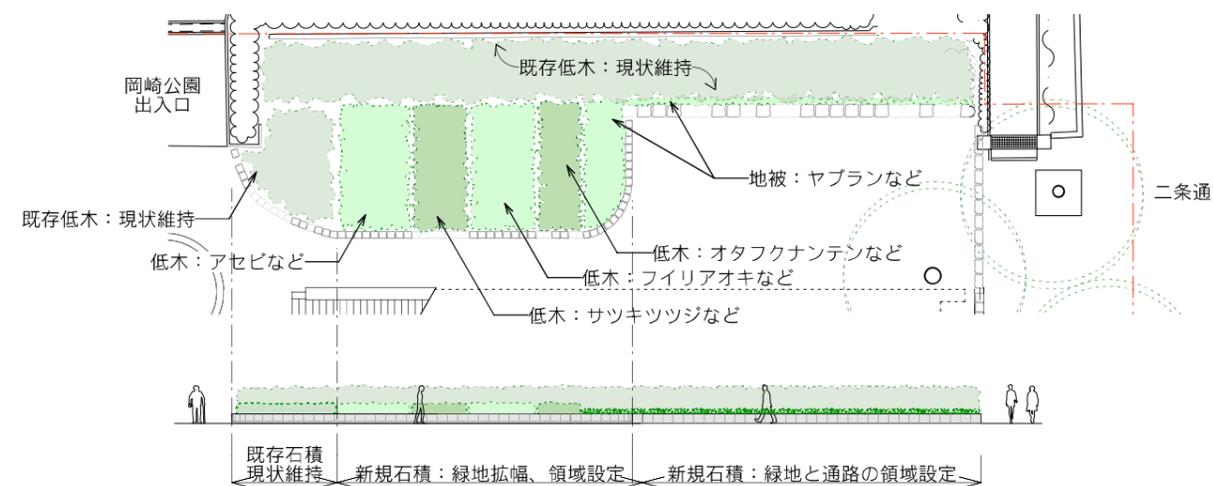
南側立面図縮尺1/800

会議棟東側の緑化計画

- ・既存プレハブ小屋を撤去後は、にぎわいスペースの搬入ゾーン、二条通から中庭への通路となることから、既存植栽を活かした良好な緑地整備を行う。
- ・岡崎公園との境界部にある現状のヒサカキ、オオムラサキツツジ、ツゲなどの植栽は現状維持として、ところどころ植栽がなくなっている箇所や緑地幅を広げる範囲では低木を新規植栽する。
- ・既存プレハブ小屋から二条通りの区間は、既存低木の保護及び通路と緑地の領域設定として足元に石積みを施し、種々の低木や地被によって季節感を演出する。
- ・敷地南東角の大木の根回りレベルは、計画レベルから数十センチ上がることになるため、整備にあたっては根周りの保護に十分留意する。



岡崎公園境界部の緑地：既存プレハブ小屋を撤去して緑地幅を広げ新規低木を植栽する。既存植栽は現状維持とする。



会議棟東側通路・岡崎公園側 平面図 立面図縮尺1/300



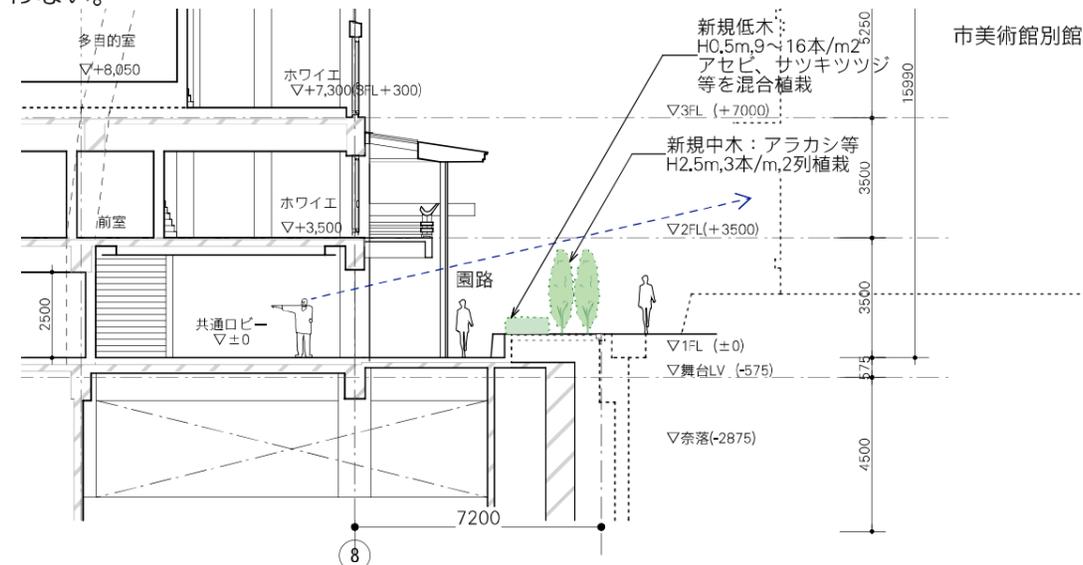
敷地南東角：既存大木の根元レベル処理に留意する。

第1ホールと美術館別館との間の緑化計画

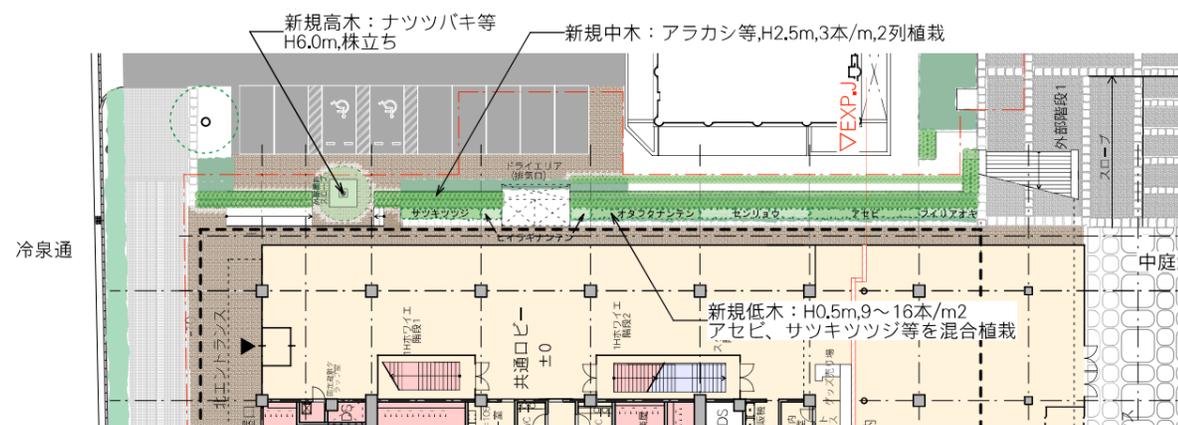
- ・冷泉通と中庭の間に園路空間を整備することから、園路の演出、美術館別館の駐車場や搬入口の視線制御といった観点から緑化整備を行う。
- ・東西両側を建物に挟まれた狭小な空間となるため、日照や風通しなど生育環境に適した樹種を選定する。

冷泉通側の緑化計画

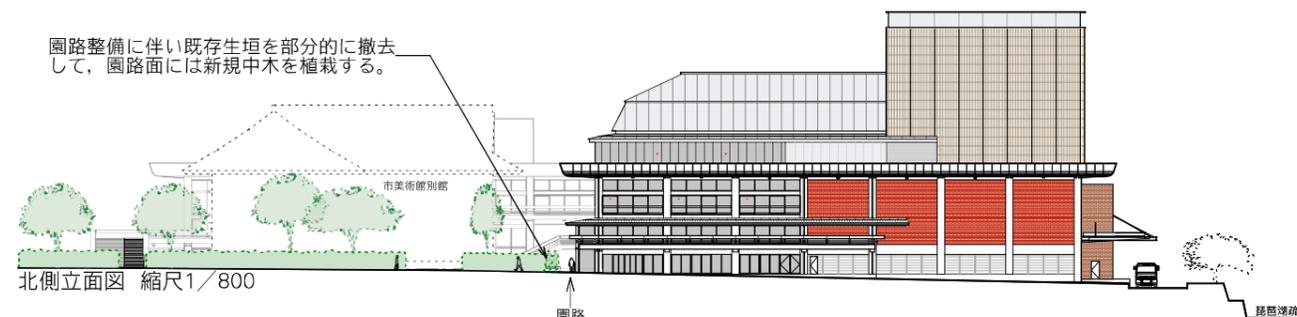
- ・北エントランス、楽屋口、搬入車両駐車場等があり、さらには北側で日照条件が良くないことから新規植栽は行わない。



冷泉通と中庭の通り抜け園路断面図 縮尺1/200：園路と美術館別館との境界部には植栽によって、園路の演出とともに美術館別館バックヤードの視線制御とする。園路が閉鎖的にならないように、園路側に低木、美術館別館側に中木を植栽する。



冷泉通 と中庭の通り抜け園路平面図縮尺1/500
 園路からスロープ又は階段で上がった駐車場側には、通行スペースを確保しながらも視線の抜けを制御するため、株立ちの高木を植栽する。足元は化粧蓋植栽柵として通行幅員を確保する。



中庭の緑化計画

- ・中庭は、隣接する岡崎公園と一体となった憩いの場、野外のイベント空間(搬入車両等は美術館別館東側駐車スペースからのアクセスルート確保)、会議棟1階の賑わい施設との連携といった観点から既存の低木類は撤去とする。
- ・中庭東側の既存大木群や足元の緑地は現状維持とする。



中庭全景:岡崎公園の樹木群や東山を借景とする。



中庭のシンボル樹:石積み緑地とともに現状維持とする。



隣接する岡崎公園との境界部の緑地:現状維持とする。



既存池周りの植栽は撤去する。但し、記念品であるものについては協議を行い取り扱いについて決定する。
中庭南側の低木列植は撤去とする(会議棟1階に導入予定の賑わい施設と中庭との連携のため)。

地上部の緑化樹種候補

新規高木樹種候補



ナツツバキ



ソメイヨシノ

新規中木(生垣)樹種候補:

緑化による演出とともに目隠し機能をもたせるため、植え付け時にH2.5m物が入手できるか等、市場性も考慮に入れて樹種を選択する。



アラカシ:
関西を代表する生垣樹種



キンメツゲ:
春の新芽は淡黄色
葉色は次第に緑色となる



タチカンツバキ:
花期は11~2月で濃紅色の八重咲き
カンツバキの立性品種

新規低木及び地被類樹種候補



アセビ



オタフクナンテン



センリョウ



ヒイラギナンテン



フィリアオキ



ヤブラン